



香川県立香川東部養護学校
人権・同和教育部



1 人権感覚について考えてみませんか？

本校では、教職員向けに年間2回(6月と12月)「人権感覚チェック」を行っています。毎日の忙しさに紛れて、いつの間にか人権感覚を見失ってしまい、反省することが度々です。児童・生徒の尊厳を守り、命を大切にすること、挨拶や称賛など、人権が大切にされる温かい環境作りをすること、いじめを見過ごさないように注意したり、児童・生徒が失敗したりできなかつたりしたときに、「またか」「やっぱり」と決めつけずに「一緒に考えよう」などと共感的な関わりをすることなど、それぞれの項目に、いつもはとさせられます。

ところで、私たちは「昔からしている」とか、「みんな言っている」として、知らず知らずのうちに偏見や差別意識をもっていることがあります。「女性だから・・・」とか、「○○だから、かわいそう」など、性別や家庭環境、学歴、職業、外見などで、人を判断していないでしょうか？また、知り合いの話やインターネットなど、根拠のないうわさ話を信じ込んでいないでしょうか。今一度、その話は本当に正しいことなのか振り返る機会をもてるといいですね。

偏見やうわさ話に左右されずに、その人の生き方や人間性を見ることを大切にしたいですね。

何時か もんぺをはいてバスに乗ったら
隣座席の人はおばはんと呼んだ
戦時中よくはいた この活動的なものを
どうやらこの人は年寄りの着物と思っているらしい
よそ行きの着物に羽織を着て 汽車に乗ったら
人は私を奥さんと呼んだ
どうやら人の値うちは 着物で決まるらしい
講演がある
何々大学の先生だと言えは 内容が悪くとも
人びとは耳をすませて聴き 良かったと言う
どうやら人の値うちは 肩書きで決まるらしい
名もない人の講演には
人びとはそわそわとして帰りを急ぐ
どうやら人の値うちは 学歴で決まるらしい
立派な家の娘さんが 部落にお嫁に来る
でも生まれた子どもはやっぱり 部落だと言われる
どうやら人の値うちは
生まれたところによって決まるらしい
人びとはいつの日
このあやまちに 気づくであろうか
江口いと著『人の値うち 江口いと人権の詩』より

2 無自覚な差別?—「マイクロアグレッション」

「マイクロアグレッション」とは…



最近、関心を集めている考え方で、「小さな攻撃」と訳されます。表現する側が無理解・無関心であるために、受け取る側が否定・侮辱・疎外されたと感じるような言動です(香川県教育委員会パンフレットより)。マジョリティー(多数者)の側がマイノリティー(少数者)に対して、悪意無く、無自覚に行っている言動で(人種やジェンダー、LGBTQ、部落差別など)、「差別だ」と抗議しにくい言動です。例えば、長く日本に住んでいる方が、毎回初対面の人から「外国人なのに日本語が上手ですね。」と言われると、「自分はよそ者だ」と言われているように感じます。また部落問題では、「部落差別なんてもう無いのに勉強する必要は無い」という会話を聞いたり、差別される不安を「気にしすぎだよ」と言われたりすると、当事者の方は差別の現実を受け入れてもらえないと感じます。マジョリティー(多数者)の側にいると見えにくく、気づきにくい問題です。「差別、差別と言いつつ何も言えなくなってしまう」と思うかもしれませんが、知ることで見えてくる差別もあります。自分の何気ない一言が相手を傷つけていないか、ときに考えてみてはどうでしょうか?

3 平和のためにできること—「戦争は最大の人権侵害」

2月24日から、ロシアの軍が隣国ウクライナを攻撃し、多くの方が犠牲になっています。早くこの争いが終わることを多くの方が願っています。私たちにできることは何でしょうか。世界で起こっていることを知り、身近な人たちと仲良くすることなど、自分のできることを一つひとつすることでしょうか。学校生活のさまざまな場面で、少しでも平和につながる学習ができればと思います。

平和学習おすすめの絵本

	<p>『へいわとせんそう』 文:たにかわしゅんたろう 絵:Noritake ブロンズ新社</p>	<p>シンプルな言葉と絵で、平和と戦争の事実をくらべます。「へいわのボク せんそうのボク」「へいわのかぞく せんそうのかぞく」…日常の風景を見くらべながら、最後にはぐっと心にせまる大切なことが見えてきます。</p>
	<p>『日・中・韓平和絵本 へいわってどんなこと?』 浜田桂子作 童心社</p>	<p>へいわってどんなこと? 「きっとね、へいわってこんなこと。せんそうをしない。ばくだんなんかおとさない。いえやまちをはかいしない…」いろいろな視点から平和を考え、平和の意味を問い返します。3か国の絵本作家が協力しました。</p>